都道府県番号	7
都道府県名	福島県

【　①■　②□　③□　】

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	福島県安達郡安達町立安達中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	3	4	2	１５	
生徒数	１５１	１１０	１２８	5	３９４	２９

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題

『自ら学び自ら考える力を育てる指導法の研究』

2　研究主題設定の趣旨

学習指導要領においては，これまで以上に個性に対応した教育活動が重視されている。生徒一人一人の学習に対する個性を重視し，それに応じた学習活動がなされるよう授業形態や指導方法を工夫していく必要がある。

また，現在の教育改革の原点は教える教育から生徒が自ら学ぶ教育への「学びの転換」にあり，我々教師にとって最も大切なことは，学ぶ子どもの側に立った授業をいかに創り上げていくかということである。学ぶ子どもの側に立った授業とは，生徒が互いに学びあい高めあい，わかる喜びにあふれ，達成感・充実感を味わうことのできる授業である。つまり，一人一人の子どものつまずきや実態を的確に把握し生徒の「もっと知りたい・わかりたい」という要求に応じた指導が行われ，教科のねらいとする基礎的基本的な内容が確かに身に付くことこそが，学ぶ子どもの側に立った授業であると言える。個々の生徒がそれぞれに考え，主体的にかつ協力的に学習課題を追究することによって，目標としての知識や技術を深く確かに理解し，身に付けることのできる授業の構築を目指したい。そのような授業によってこそ，一人一人の生徒のよさが生かされ，個を最大限に伸長できるものと思われる。

そこで，固定化した学習集団の枠をはずして，生徒のつまずきや要求する学習課題の水準が近いであろうと予想できる少人数の習熟度別集団を組織し，個に応じ，個を生かす指導法について研究を進めたい。そのような過程で人やもの・事象へのかかわりを通して，自ら考える力がつき，ひいては「確かな学力」が身に付くであろうと考え，本主題を設定した。

Ⅲ　研究の概要

1　研究推進体制の工夫

フロンティア委員会を組織して，授業研究部（数学科と英語科）を中心に研究を推進する。

2　研究の実際

（1）研究教科・学年

学習の習熟の程度や学習意欲に差が生じやすく，系統的な指導が必要であると考えられる第２学年～第３学年の数学科・英語科において実施する。なお，数学科・英語科においては，加配教員を各１名配置されているため指導体制の工夫が可能である。

（2）テーマ

「確かな学力の向上につながる少人数指導のあり方」

（3）仮　説

習熟度別指導の特質を生かし，個人差に応じ，個を生かす学習活動を組織すれば，確かな学力が身に付くであろう。

（4）研究内容

A　個人差に応じ，個を生かす指導のための指導体制の工夫改善

①　数学科・英語科における，発展的な学習・補充的な学習を可能にする教育課程の編成・時間割の工夫

・年間を通じて２,３年の数学科・英語科においては，習熟度別の少人数指導を実施する。
・２,３年の数学科・英語科の授業においては，数学科・英語科の授業を同一時間に設定する。
・数学科と英語科の教科部会を時間割に位置付ける。
②　習熟の程度に応じた学習集団編成による指導の工夫
・２学年＝全３クラスを３コース　＝A 基礎　　B 標準（２クラス）　C 発展の４クラスの集団に編成する。
・３学年＝２クラス（全４クラス）を３コース　＝A 基礎　B 標準（２クラス）　C 発展の４クラスに集団編成する。
・習熟度別のコース分けについては，生徒の希望を取り入れ，学習達成度・学習速度・興味関心に応じて教科担任の指導助言のもとに編成する。
③　コース分けに対応した指導計画・評価計画の作成
・習熟度別クラスの特質を生かした指導と評価の具体的な手だてを作成する。
④　生徒・保護者への周知徹底
習熟の程度に応じた学習集団編成するに当たって，
生徒に対して
ア　自分のための学習であることを正しく理解させる。
イ　学習のコースは生徒自身に判断させ,教科担任の指導助言のもと決定させる。
ウ　学習途中でのコース変更を可能とする。
エ　単元ごとのガイダンスを実施する。
保護者に対して
ア　授業参観などを通して生徒の学習時の姿を公開する。
イ　学校だより，学年だよりなどを通して「習熟度別の少人数指導」の趣旨・方法を示し，理解を得る。
ウ　「習熟度別の少人数指導」に関しての意見を求める。（アンケートの実施）などの手だてを講じる。

B　個人差に応じ，個を生かす指導のための教材開発・指導方法の工夫

①　第２学年～第３学年の数学科・英語科における，発展的な学習・補充的な学習の教材開発
〇教科の特色をふまえた習熟度別学習プリントの工夫と活用
・数学科においては，コース別に学習プリントを作成し，それぞれの学習プリントは，全コースに配布する。（コース間移動の資料とするため）
・発展コースでは，難問題や発展問題を多く取り入れ，知的好奇心に訴える工夫をする。
〇教科部会で教材開発の情報を交換し，コースごとの指導効果を高める工夫をする。
・各コースで成功した例，失敗した例などを交換することにより，自分の担当するコースの指導に生かす工夫をする。

②　発展的な学習・補充的な学習など個人差に応じ，個を生かす指導方法の工夫
〇座席表による個の理解と個別指導への活用
〇個別指導に活用できる生徒の個人カルテの作成
（個人カルテを作成し，生徒のコース間の移動を可能にする）
〇コースの実態に応じた授業の具体的な手だての構築

■ 習熟度別指導の特質を生かした授業の具体的な手だて■

個に応じた指導により自ら学び自ら考える力を育てる授業	授業の構成	Aコース(基礎)	Bコース(標準)	Cコース(発展)
	ガイダンスをし、各コースの進め方の見通しを持たせ、コース選択に生かす			
	学習のスタイル	補充的な活動も取り入れ、個別指導の時間を多めに確保する。	個別指導，グループ活動，一斉指導を適切に取り入れる。	追究活動が多くなるので，個別，グループ活動を効果的に取り入れる。
	既習事項の確認	本時に関連する既習事項の確認を確実に行う。	本時に関連する既習事項の確認をして補足しておく。	単元のレディネスにより把握しておく。
	課題把握の工夫	具体物を活用したり、具体的問題の解決をする。	興味・関心・意欲が起きる課題を設定する。	前時の関連より課題を与え、自力解決させる。
課題解決・強化	知的好奇心を起こす工夫	ヒントカードを活用する。	ヒントカードの活用，グループ活動などにより多様な考え方に触れさせる。	グループ活動などにより多様な考え方に触れさせる。主体的問題解決の場を設定する。
課題解決・強化	成就感を味わわせる工夫	基本問題の確実な解決により出来た喜びを感得させる。	発展問題に積極的に取り組ませ，解決の喜びを感得させる。	発展問題の難問題を解決した喜びにより達成感を味わわせるとともに内発的動機付けをする。
まとめ・評価	振り返る場の設定	自己評価させ，わかったことの確認（できるようになった内発的動機づけ）をする。	自己評価 の仕方を工夫し，まとめの方法を工夫する。	自己評価を行わせ，次時へ発展させる。
まとめ・評価	自己評価と教師による評価を生かし，単元末のコース選択に生かす			
	個の理解（実態把握） ・レディネステスト　・個人カルテ　・座席表　・自己評価表 ・アンケート調査　・NRT学力検査の分析　・単元テスト，定期テストの分析			

・

確かな学力の育成

C　生徒の学力の評価を生かした指導の改善

①　単元の指導計画をもとにした一単位時間ごとの達成基準の作成

②　評価方法の工夫・改善

・NRT 学力テストの活用（生徒の実態把握＝生徒の学力分析）

・自己学習能力を育成する自己評価の工夫

・自己評価力，相互評価力を高める指導方法の工夫

・絶対評価の充実

　　個人カルテの作成と活用によるつまずきの把握

　　座席表による１単位時間の評価の積み重ね

・　家庭への通知表の工夫，改善

3　研究の成果と課題

A　個人差に応じ，個を生かす指導のための指導体制の工夫改善

①　数学科と英語科の教科部会を時間割に位置付け，教科部会の充実を図ることにより単元で指導すべき基礎・基本とは何か，基礎・基本を徹底して生徒一人一人に身に付けさせるにはどのようにしたらよいか，評価をどのようにするかなどについての研究を深めることができた。

②　習熟の程度に応じた学習集団編成するに当たって，生徒と保護者に対して十分な説明を行ったことにより，習熟度別少人数指導に対しての理解が得られた。

　生徒と保護者にアンケートで意見を求めたところ，生徒からは「やればできると思った」「授業で分かる喜びを味わえた」「学習が楽しくなった」などの回答が得られた。習熟度別少人数の指導により生徒一人一人の学習意欲が高まったと考察できる。また，保護者からは「習熟度別の少人数指導は真の平等教育であると感じる」「少人数の指導によって，より多くの先生と接する機会が増えたのを子どもは喜んでいるようである」「子どもが生き生きと学習している様子が伺える」「指導形態を工夫して行ってくださったおかげで，わからないことがわかるようになり自宅での学習への意欲が以前より増しているのをうれしく思う」などの回答が寄せられ，数学科・英語科における新しい指導方法にほとんどの保護者が好感を持っているという結果が得られた。能力別に分けられたという負の意見は全くなかった。一人一人の学びに目を向け，コースの特質に応じた指導の工夫がなされたことはもちろんであるが，教師の助言をもとに生徒自身にコース選択をさせたこと，単元別にコース間の移動を可能にしたことが主な要因と考えられる。

③　自己を正しく見つめさせ，他を認めあう集団作りを一層進め，集団の間にある目に見えない壁をなくす努力を今後も続けなければならない。

④　コースに応じた指導計画・評価計画の検討を継続的に行い，改善を加えていくことは今後も必要である。

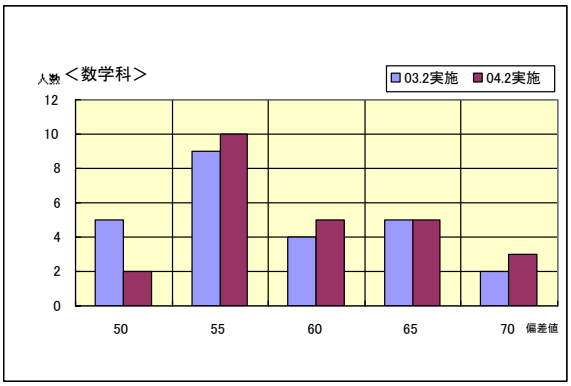
B　個人差に応じ，個を生かす指導のための教材開発・指導方法の工夫

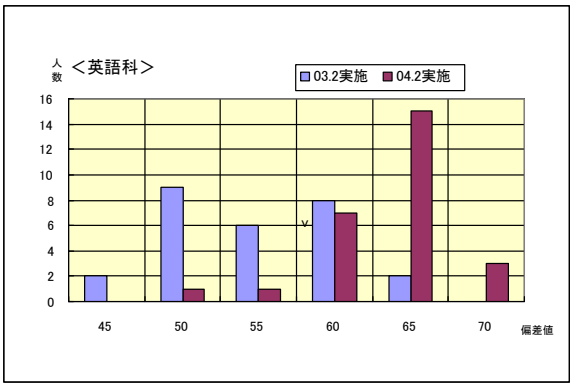
①　生徒一人一人の習熟の程度に合わせた教材を準備して，個人差に応じた指導助言を行ったため，問題解決能力が高まった。特に，学力上位層の伸びは著しい。

○標準学力検査 NRT 結果より/昨年度の偏差値との比較　　（　）内は昨年度の結果

	○数学科		○英語科	
全体偏差値	50.6　(50,7)	－0,1	53,0　(47,7)	＋5,3
C(発展)コース	63,0　(60,2)	＋2,8	65,6　(58,6)	＋7,0

○度数分布による昨年度との比較（発展コース）





②　数学科において，B コース（標準）の生徒の伸びがあまり認められなかった。生徒の学力をいかに保障していくか，コース内での工夫が求められる。

③　担当教師の観察から，学習の仕方が身についた生徒には，自らが学び，自ら考える力が育成されていると考察できる。

○思考力

・発展的な問題を数多く取り上げたことにより，思考する力が高まった。（英・数）

・ワークシートの活用により，考える時間が十分に確保でき，考える姿勢が身に付いた。（数）

〇表現力

・発展コースでは，互いに学びあう姿が見られ，多様な表現ができるようになった。（英）

・図形における論証などにおいて，諦めないで考えるようになり，NRT の結果においても高い伸びを示している。さらに他に伝える力の育成が課題である。（数）

〇問題解決能力

・既有の知識をもとに解決しようと努力する姿が見られ，問題解決の喜びを味わう生徒が増えた。（数）

〇学ぶ意欲

・スキルが高まったことにより，表現が豊かになり，意欲が高まった。また，グループやペアでの学習に積極的に取り組む姿が見られた。（英）

・少人数指導のため，発表の機会が増え，個の学びを認めることができた。そのため授業への意欲や集中力が高まった。（英・数）

・学習は楽しいという体験を通して生徒一人一人に学習意欲を持たせることができた。（英・数）

〇学び方

・個別指導のチャンスが増え，学び方を一人一人に身に付けさせることができた。特に，C（発展）コースでは，互いに高めあいながら自信を持って学んでいた。（英）

C　生徒の学力の評価を生かした指導の改善

①　標準学力テスト NRT の結果の分析，座席表や個人カルテの作成と活用により，一人一人の生徒のつまずき・達成基準の到達度が把握され，より効果的な指導の工夫・改善へつなげることができた。

②　個人カルテの作成と活用により，生徒のコース間移動がよりスムーズに行われた。

③　教科部会における十分な検討がなされ，定期的に指導を振り返ることにより，達成基準を生かし，ねらいを明確にし，事中，事後の評価を適切に行いながら授業を構築していくことにより指導と評価の一体化が図られ，これが学力向上に繋がったと考察できる。

④　つまずいた生徒，目標達成の早い生徒への手だてをどうするか，指導計画と評価規準の見直し，単位時間ごとの評価の観点を焦点化するなど，今後研究を重ねていきたい。

4　研究成果の普及の方策

①　授業研究と郡内，管内への授業公開

数学科と英語科に４名ずつの教師（うち講師２名）が配置されており，全員が授業研究を実施し，それぞれ公開した。

町内公開　　数学２回　英語２回

郡内公開　　数学１回　英語１回（指導助言：県北指導主事）

県北域内公開　数学１回　英語１回（指導助言：滝沢雄一福島大学教授）

中間発表公開　数学１回（指導助言：清水静海筑波大学助教授，県北指導課長）

②　中間報告パンフレット作成・配布（県北管内中学校全校，県内フロンティアスクール）

③　郡内校長会で，情報交換と関連プリント等配布

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの新規校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
■１３～１５学級　□１６学級

【指導体制】　■少人数指導　□TT による指導
・その他

【研究教科】　□国語　□社会　■数学　□理科
■外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】
○　教科部会の活性化
○　習熟の程度に応じた学習集団の編成と指導の工夫
○　補充的な学習・発展的な学習の教材開発
○　評価方法の工夫・改善
○　習熟度別少人数指導についての生徒及び保護者への説明